

令和7年度 学校評価
学校関係者評価

○評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない の4段階で評価。

領域	NO	評価項目	学校自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	評価の説明及び改善策として考えられること
組織・運営	1	本校は、目指す学校像の実現に向け、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	目指す学校像や経営方針について、教職員・保護者に対して丁寧に説明し、概ね共通理解のもとで学校経営・運営を進めることができている。今後は、学校評価や日常の実践の成果を定期的に振り返り、学校経営の重点と関連付けながら、より計画的な改善につなげていきたい。	A	目指す学校像として掲げられている、「学び合い 認め合い 高め合う学校」の具現化に向けて、校長先生のリーダーシップの下、丁寧で着実な指導を展開されていることが参観した授業や学校だより、実習でお世話になった学生の報告等から非常によく伝わってくる。
	2	本校は、災害や事故等に対する組織的な体制を整えている。	A	マニュアルの整備や訓練の実施、安全点検等を計画的に行い、災害や事故への備えを進めている。今後は、訓練後の振り返りをより充実させ、教職員一人一人が自分の役割を具体的にイメージできるよう、実践的な改善を重ねていきたい。	A	災害や事故等の話は殆ど聞かない。学校運営が適切に為されている証左ではあるが、災害や事故等は忘れた処にやってくる。過去の事例や最悪の事態を把握しておくことも必要だと考える。 訓練は不断で行うことが必要だと思う。防災情報の入手先として「坂戸防災アプリ」もぜひ多くの関係者に利用していただけるよう、配慮をお願いしたい。
	3	本校は、働き方の改善を推進している。	B	時間外勤務の抑制や声かけ等を通して、働き方改善に向けた意識づけは進んでいる。一方で、勤務時間内に教材研究や事務処理を行う体制づくりには課題が残る。今後は、業務の精選や役割分担、会議の在り方の見直しを進め、教職員が本来の教育活動に専念できる環境整備を図っていきたい。	B	「人」を育てるという業務の特殊性を考えると、単純に割り切れない面があると思われる。改善に向けて先生方お一人お一人が努力を重ね、より質の高い教育活動に専念できるよう、期待している。 学校という教育現場の性質上、やらねばならない事も多いのが事実である。すべてこれに束ねられないと考える。
教育課程・学習	4	本校は、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組んでいる。(市重点項目)	A	全校で学びづくりを通じた授業改善に取り組んでいる。協働的な学習や授業研究を通して、学びを深める実践が広がってきている。今後は、学力調査等の結果をより効果的に分析し、日常の授業改善につなげることで、学びの質のさらなる向上を目指したい。	A	子供たちは自ら興味を持ち、他の生徒たちと協働で考え、知識を身に付けているのではないかと。教室内の机の並べ方もよい。 参観の際、先生方の学びに対する熱意と意欲の高さを感じた。それは学力の高さにも表れていると思う。貸出図書を持ち帰りもよい効果を生んでいると思う。さらに研鑽を深め、学びの質を深められることを期待している。 課題に対して、先子ども達のグループ討議を行わせ、解を見出させる授業が行われていた。
	5	本校は、豊かな心を育む教育の充実を図っている。	B	道徳教育を中心に、児童同士が互いを尊重し、支え合う学級づくりが進められている。今後は、日常的な声かけや風通しのよい職場環境づくりを大切に、不祥事を未然に防ぐ組織文化の定着を図ってきたい。	A	学校内の空気が明るく思うので、児童の心も豊かなのでは、と思う。 保護者アンケートでも、豊かな心の育成が99%と非常に高値を示しており、来校する度に子供たちの輝く笑顔に癒される。これは、教育活動全体を通じて豊かな心の育成が進められているからこそ、そのような子供たちが育まれているのだと思う。 道徳教育で、色々の人の立場やケースを想定させ、考えさせる授業が行われていた。
資質の向上	6	本校は、体罰や交通事故等の不祥事を根絶するための効果的な取組を実施している。(市重点項目)	A	研修やチェックリストの活用を通して、不祥事防止に対する教職員の意識が高まっている。今後は、日常的な声かけや風通しのよい職場環境づくりを大切に、不祥事を未然に防ぐ組織文化の定着を図ってきたい。	A	教職員と子ども達の仲の良さが窺える。教職員は子ども達をきちんと「さん」付けで呼び、子どもの人格を尊重している様子が窺える。 コミュニケーションの活性化により相互理解と信頼を深めることが重要だと考える。 不祥事の孤絶には先生方の防止に対する意識の向上が不可欠と考える。さらに風通しのよい職場づくりに努力をしていただけたらと思う。
	7	本校は、不登校の未然防止や課題解決のための取組を実施している。(市重点項目)	A	個別の支援や関係機関との連携を行っているが、取組が個々にとどまる場面も見られる。今後は、定期的なケース会議の実施やSSR等の活用を進め、全教職員による組織的な支援体制の強化を図っていく必要がある。	A	学校に来ると楽しいと思われる学校づくりをして、子供たちとのコミュニケーションをとり、早期からの情報共有が大事だと思う。 各児童センターでも不登校児童の居場所支援事業「ひだまり」を進めていくので、そちらとも連携してもらえればと思う。 不登校の問題は全国的な課題となっており、「さつきルーム」の運用に期待している。
学習環境	8	本校は、特別支援教育の充実を図っている。(市重点項目)	A	特別支援教育に対する理解は概ね深まり、コーディネーターを中心とした支援体制も機能している。今後は、研修内容のさらなる充実や保護者への情報発信を通して、学校全体での共通理解を一層深めていきたい。	A	南小の特別支援教育は、非常に充実していると思う。 特別支援学級にとどまらず、配慮を要する児童への先生方の対応がとても自然に展開されており、児童のインクルーシブな心の醸成はこういった日常から進んでいくのだらうと感じている。 特別支援学級の児童の表情の明るさについて心を打たれている。先生方の深い理解と努力が如実に表れている。
家庭・地域との連携	9	本校は、積極的に家庭・地域等と連携・協働している。	A	学校運営協議会の充実や情報発信を通して、家庭・地域との連携は進んでいる。今後は、地域の教育資源をさらに活用し、地域人材の教育活動への参画や関係機関との連携などを進め、教育活動の質の向上につなげていきたい。	A	学外での安全確保や調理実習等の授業へのサポートなど、家庭や地域と連携しながら子供たちの安全・安心が守られていると感じている。また、学校だよりには地域との様々な連携が紹介されており、毎回楽しみに拝読している。そこには意見や感想を寄せる場もあり、家庭や地域と共に教育活動を展開しようという学校の姿勢が明確に表れていて素晴らしい。その姿勢をこれからも大切にしていきたい。
小中連携	10	本校は、小中連携を推進している。	B	小中間での情報交換等は進められているが、内容や頻度に課題が見られる。今後は、児童生徒の連続した学びや安心につながるよう、具体的な取組内容を整理し、計画的な小中連携の推進を図ってきたい。	B	学校運営協議会にお二方の中学校長が参画されており、南小の状況は相当程度把握されていると考える。中学生によるランニング指導など生徒間の交流も適宜行われている。 小中での教育課程を含めた連携を図れるとよい。